

### 空気環境（空気質と風速）の測定のレポートについて

全体的に、前回のレポートよりも良くできている印象でした。それでも、幾つかの問題点や前回の注意点を聞いていないと思われる人がいました。以下の点に注意して、今後のレポートの作成に取り組んでください。

- 1) 「 $\mu$ （ミュー）」などのギリシア文字は読みも難しくやっかいです。多くの場合、日本語入力の「文字パレット」などの「ギリシア文字」から入力できますので、きちんと入力してください。
- 2) 風速の単位は、[m/s]（秒速～メートル）です。単位は、きちんと書き込んでください。
- 3) レポート中の図表の読み方も、読み手にわかるように、最低限で良いですから、書き込んでください。
- 4) ワープロの変換ミスが目立ちます。レポートを作成した後の読み返しを行ってください。
- 5) ページ番号を入れてください。
- 6) 「別紙を参照」、「下記に示す」などと書いてあるのに、それらが見あたらない人がいました。きちんと入れておきましょう。また、「別紙」や「下記」がわかりにくい人もいました。わかりやすいように心がけてください。
- 7) 平面図には、縮尺もしくは寸法、方位などを入れてください。建築を学んでいるのですから。また今回の場合では、風の出入り口である「窓」などのように、実験に関係するものについても記入してください。
- 8) 何度も言いますが、読み手が読みやすいレポートの作成を心がけてください。自分で読んでわからないものは、他人が読むと、さらにわかりません。
- 9) フォントを上手に使いわけてください。例えば、ゴシック体と明朝体を使い分けるだけでも、かなり見やすくなります。
- 10) 一般に論文には、感想は書きませんが、この実験のレポートの場合は、感想も書いてください。
- 11) 結果の評価に用いた基準値についてもレポートの中に、書き込んでください。今回のような実験の場合は、採点する教員がわかっている場合が多いですが、普通はわかりません。
- 12) トルエンの測定結果を「0.1」と「0.01」としている人に分かれていました。小数点の位置が一つ違うだけで、大変な結果となりますので、くれぐれも注意してください。また、数値を写し間違っている人も見られました。注意してください。
- 13) 風向や外部の風速も測定すれば良かったという感想がありました。来年の実験の際には、測定するようにします。
- 14) ホルムアルデヒドやトルエンが「存在する」ことを不安に思う人がいましたが、自然界にも微量ですが存在します（75ページを参照。（出典：『シックハウス事典』（日本建築学会編、技報堂出版、2001年9月、¥2,310、ISBN：4-7655-2456-6）〔所蔵なし〕））ので、「存在」自体は、大きな問題にはならないと思われます。
- 15) 「風速が弱い」＝「換気なし」とは、一概には言えません。風速（[m/s]）だけではなく、風量（[m<sup>3</sup>/s]）が問題になってきます。

居住環境調整工学実験（第8回目）[水曜日・14:30～17:40・設備システム実験室]

2001.12.5

環境共生学部・居住環境学専攻  
講師・辻原万規彦